



高さ 4m、幅 10mの雪山にメッセージを書いた



4色のスプレーで雪に文字を書いていく



作業前の入念な打ち合わせ

2月21日、青年部の8支部19名が道の駅田園の里うりゅうの駐車場に、青年部の活動をPRする「スノーメッセージ」を作製した。
急激な気候変動や激動する農業情勢に対し、青年部一同で連携を取って挑んでいく思いを込め、「農業はチャレンジ!!」とメッセージを書いた。

JAきたそらちでは、ホームページとFacebookで、魅力満載の情報を発信中です！ぜひ、ご覧ください！



～目次～

- ◆農林水産省職員が地元深川市で講演
農業フォーラム2019開催 — 2
- ◆深川市内5地区で平成30年度の
水稻を振り返る講習会 開催 — 2
- ◆平成31年度 営農組合長名簿 — 5
- ◆青年部一已支部 除雪ボランティア — 6

農林水産省職員が地元深川市で講演 農業フォーラム2019開催

1月25日、深川市のプラザホテル板倉にて同市農民協議会主催の「農業フォーラム2019」が開催され、同市内の農業関係者約150名が参加した。

深川市出身で農林水産省の三野敏克氏が「農林水産関係の経済連携交渉をめぐる情勢について」と題した基調講演を行なった。三野氏は、TPP11や日欧EPA、日米物品貿易協定（TAG）などの通商政策について、交渉の経緯や結果、農産物の関税撤廃による輸出入状況の動向などを表やグラフを用いて説明した。

また、同市の基幹作物であるコメへの影響については、TPPで米国に割り当てた国別枠はTPP11には適用されないこと、今後米国と交渉が予定されているTAGについても、「過去の経済連携協定で約束した市場アクセスの譲許内容が最大限であること」を米国側も尊重することが日米共同声明に明記されていることなども説明した。

同日、同市農業対策協議会の総会が開催された。議事の前に「クリーンライスふかがわ生産販売拡大委員会」の共励会表彰が行われ、同委員会の審査基準に基づき選ばれた生産者8名に賞状と記念品が授与された。尚、表彰者については右記の通り。



＜受賞生産者＞

【ななつぼしの部】

最優秀賞 大竹口 斉子さん（音江地区）

優秀賞 吉田 和彦さん（メム地区）

【ふっくりんこの部】

最優秀賞 渡辺 武利さん（一已地区）

優秀賞 阿波 一雅さん（メム地区）

【ゆめびりかの部】

最優秀賞 阿波 一雅さん（メム地区）

優秀賞 中川 功さん（メム地区）

【きらら397の部】

最優秀賞 北本 清貴さん（メム地区）

優秀賞 松野 勇二さん（納内地区）

販売部

深川市内5地区で 水稻を振り返る講習会 開催

2月5日から7日、深川市内5地区を対象に、平成30年度の水稲生育、収量、品質を振り返る講習会が開催された。

同講習会は、昨年管内の水稲が不作傾向となった中で、天候や土地など同じ条件下でも収量を確保した生産者がいたことを受け、環境に大きく左右されず収量確保できるノウハウを学びたいという生産者の声から当JAが企画した。

空知農業改良普及センター 北空知支所 田村光彦氏が講師を務め、平成30年の気象経過や、米の作柄・品質の特徴、本年産に向けての技術課題などを説明した。田村氏は、「昨年は雨が多かったことが不作の原因だと考えがちだが、品質に最も影響する登熟期から成熟期の降雨量が少なく、土壌の水分不足が大きな原因」と分析した。また講習会の最後には、「昨年のような不作になる年もあるが、もう一度水稻栽培について改めて学べるいい機会だったと思ってほしい。昨年から学んだことを31年産に活かしてほしい」と話す。



春作業に向けて

経済部

JAきたそらち 春作業衣類展示会を開催

2月6日と7日の2日間、営農センター資材店舗で、毎年恒例の春作業衣類展示会が開催された。普段店頭にな
い防寒長靴や特価のヤッケなどが並ぶこの展示会は組合員に好評で、2日間で約170人が来店し、間もなく始まる
農作業に備え田植靴や手袋などをまとめて購入した。

また、JA共済提供の身体的負担を軽減する農作業用アシストスーツ「ラクニエ」の無料体験も行われ、10リットル
の液剤が入ったタンクを持ち上げる体験をした組合員は、「荷物を持ち上げやすい」「腰痛持ちだけど少し楽になる
」と話した。



春作業で使う手袋などを
袋いっぱい購入する組合員



アシストスーツ「ラクニエ」の着用体験を行う組合員

【資材課 明月】

「北育ち元気塾」 閉講式と第8回研修会を開催

農業
振興部

1月31日、当JA本所にて「北育ち元気塾」の平成30年度閉講式が行われ、元気塾生や関係機関など37名が出席した。

開会にあたり、北空知農業後継者育成支援協議会 渡邊滋典会長が、「元気塾は今年度で7年目を迎え、年間カリキュラムも塾生にとって学びやすいものになってきている。次年度も引き続き塾生として受講し、新たな農業を展開する力を身につけてほしい」と挨拶し、続けて皆勤賞の表彰や研修実績報告が行われた。

閉講式に引き続き、年度最後となる第8回研修会が開催され、「法人経営を学ぶ」をテーマに北海道指導農業士の中西秀幸氏（多度志地区）と鶴野範之氏（沼田町）によるパネルディスカッションや、30年産「ななつぼし」、「上育474号」、「空育191号」、「上育471号」の食味試験、普及センターより昨年の水稻生育状況の結果を基に稲作の反省と課題の報告が行われた。最後に塾生である菅原浩道氏より「台風が変えた私の人生」と題したアグリメッセージの発表が行われた。

平成31年度の閉講式は4月上旬を予定している。

【営農企画課 石野】

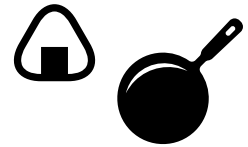


渡邊会長による挨拶



食味試験に挑戦する塾生

若手女性農業者を対象に 「味覚を育てるお料理講習会」開催



1月22日、女性部が管内の若手女性農業者を対象に「味覚を育てるお料理講習会」を開催した。女性部加入の有無に関わらず参加者を募り、13名が参加した。

昨年2月の女性部学習会で講演した置戸町食のアドバイザー 佐々木十美氏を講師に招き、自分たちが普段使っている調味料はどんな材料で作られ、どんな味かをするのかを、手作りや無添加の調味料と市販の調味料とを比較しながら学んだ。また手作りや無添加の調味料を使った料理にも挑戦し、作り置きができるものや子どものおやつになるものなど4品と、時間が経っても美味しいおにぎりの包み方を教わった。

【営農企画課 三浦】



農業
振興部



女性部フレッシュミズ合同交流会開催



1月28日、女性部フレッシュミズの各支部から部員13名が集まり、第13回合同交流会が開催された。

深川市近隣の1市4町の農業者が参加する「元気村 夢の農村塾」から高橋久夫塾長を招き、同塾の取組みや活動内容を学んだ。高橋塾長は、毎年約1,000人の中高生を受け入れている農業体験活動を紹介し、「この取組みは農業の応援者を増やすことに繋がる。学生達は農業が命を育む産業であることを体得し、その笑顔は生産者に元気と感動を与えてくれる」と話した。体験中の写真も紹介され、参加した部員は興味深く説明を聞いた。

その後の懇親会では、普段会うことの少ない他支部の部員と女性部活動の情報交換などをしながら交流を深めた。

【営農企画課 三浦】

平成31年度 営農組合長																						
地区名		組 合 名		氏 名		構成員				地区名		組 合 名		氏 名		構成員						
音 江	菊	丘	若 林	茂	10		雨 竜	南	盛	池 田	幸 広	38		東	栄	石 橋	章 雄	22	◎			
	音 江	東	澤 田	雄 一	16				西		広 瀬	功	23		中		央	柴 垣	恵 一	22	○	
	内	園	長 岡	邦 彦	17	◎			本		牧	高 田	浩	35		北		友	沖 田	努	35	
	音 江	中 央	澁 谷	英 夫	62				(雨 竜) 計175戸													
	音 江	西	石 川	大 輔	38	○			碧	水	山 外	明 人	19		岩		村	鈴 木	公 洋	22		
	(音 江) 計143戸								恵		北	阿 部	文 男	9		美 葉	牛	加 葉 田	研	20		
× ム	北	東	中 村	二 仁	19	◎	北 竜	古		作 出	口 宣 伸	9	◎	板		谷	渡 辺	俊 成	23	○		
	芽	生	横 内	友 博	23				西		川	澤 田	正 人	9		和		小 林	俊 哉	15		
	南	区	溝 口	勝	25	○			三		谷	後 藤	敦	13		恵		竜	佐 藤	綾 人	22	
	北 菊	水	金 谷	良 和	16				(北 竜) 計161戸													
		巴	中 川	幸 生	23				南		幌	中 川	一 美	33		幌		中	中 村	雅 義	30	
	(× ム) 計106戸											鹿 島	邦 治			幌		里	阿 部	隆 幸	34	○
一 已	一 已 第 1	西 村	勝 義	24		幌 加 内	北		幌	笠 井	正 展	15	◎	(幌加内) 計112戸								
	一 已 第 2	垣 谷	康 一	25																		
	一 已 第 3	坂 井	幸 宏	21																		
	一 已 第 4	渡 部	敏 幸	28	○																	
	一 已 第 5	須 田	守	22	◎																	
	一 已 第 6	石 川	敦 彦	27																		
納 内	(一 已) 計147戸				多度志	納	内	村 椿	光 生	79	◎											
	(納 内) 計79戸																					
多度志	多 度 志 南	大 井	清 一	47	○																	
	多 度 志 北	池 田	隆 幸	40	◎																	
	(多度志) 計87戸																					
◎印は営農組合長連絡協議会代表者です。																						

◎印は営農組合長連絡協議会代表者です。
○印は営農組合長連絡協議会副代表者です。

営農組合数 39組合 営農組合戸数 1,010戸

JAきたそらち農業教育振興基金 収支報告

篤志者の寄付等からの積立てによって造成されている当JA農業教育振興基金は、平成31年1月末残高は6,521,761円となっています。

今後においても当JA組合員教育の実施や地域農業振興のため、優れた農業者の育成を目的として活用させていただきます。

自：平成30年2月1日～至：平成31年1月31日

【収 入】	項 目	金 額	摘 要
	繰越金	6,743,483	平成30年1月31日残高
	寄付金	0	
	その他（貯金利息）	56	
	収入合計	6,743,539	
【支 出】	項 目	金 額	摘 要
	農業後継者、新規就農者 育成研修助成	221,778	音江地区 1名・一已地区 1名・多度志地区 1名 合計 3名研修受講
	支出合計	221,778	
	差引残高	6,521,761	

剪定技術の向上に

深川市桜桃剪定講習会を開催

青果部

2月8日、深川市果樹協会ときたそらち果樹生産組合が、桜桃剪定講習会を開催した。会場となった音江地区のはやし果樹園に、桜桃生産者など10名が集まり、高品質な果樹生産のための剪定方法を学んだ。

開会にあたり、同生産組合の曾我部好美組合長は、「昨年は収量や品質が平年に比べてあまり良くなかった。昨年の分を今年取り戻せるよう、今日学んだことを活かして作業を頑張りたい」と挨拶した。

空知農業改良普及センター北空知支所の黒瀬忍主査が講師を務め、「一番下の枝が南に、一番上の枝が北に向くように剪定し、しっかり全ての枝に光が当たるように」などとアドバイスをしながら、約1時間半の実技指導を行なった。



剪定ポイントについて
説明する講師の黒瀬主査



青年部

一已支部除雪ボランティア

青年部一已支部（荒井和也支部長、部員26名）は12日、深川市内の高齢者宅を訪問し、除雪ボランティア活動を実施した。地域貢献の一環として11年間続けており、今年は2件を訪問した。

参加した部員は手慣れたスコップさばきで家の周りに高く積もった雪山を崩し、3時間ほどかけて作業を終えた。荒井支部長は「“ありがとう”という言葉を聞くと、もっと頑張ろうと思う。これからも活動を続け、少しでも地域貢献につなげたい」と話す。



雪で埋まった窓を掘り出す部員

2018年度 優良JAに選ばれました

このたび、JA全中（全国農業協同組合中央会）が選ぶ「2018年度 表彰農協」において、当JAが優良表彰を受賞した。JA全中の表彰規定と審査要領に基づき優良表彰には全国から7JAが選ばれた。当JAにおいては、事業が組合員の経済発達に効果をもたらしていることや、健全な経営であることなどが高い評価を受けた。

優良表彰JAに選ばれたことを受け、柏木孝文組合長は「合併以来の役職員皆さま方の努力あってこそその結果となった。頂いた賞に恥じないよう、組合員や地域社会を支える農協として役職員一丸となり尚一層尽力していきたい」と話す。

授賞式は3月8日のJA全中通常総会で行われる。



合格おめでとうございます

資格認定試験に次の職員が合格いたしました。

【農業経営診断士】

佐藤 一久

【北海道農協職員資格認定試験】

上 級

山崎江利子	木島 弘美	中川 留美
岡部慎一郎	玉置 将督	阪井 知世
古木 亮裕	高榮 政輝	合田 章義

中 級

越智 順哉	東 貴宏	青山 慶生
尾崎 愛	松本 大輝	中橋美弥子
山崎 栞	植田 隼斗	畠山倫太郎

初 級

浅野 和弘	鹿島 友美	西河 康浩
中村 勇	白川 航	上埜 祐輝
石野 泰誠	明月 楓花	



JAきたそらち太陽光発電所 発電実績

○平成31年1月実績

○累計 (H30.12~H31.1)

発電電力 **17,932kwh** 発電電力 **28,873kwh**

計画対比 +10,228kwh

計画対比 +8,120kwh

前年対比 2,110kwh

前年対比 1,391kwh

平成30年度 JAきたそらち太陽光発電所 収支報告 (単位:千円)

項 目	30年度実績	計画対比		前年実績対比		備 考
	金 額	金 額	対 比	金 額	対 比	
H30年度発電収入 ①	20,876	16,899	3,977	21,105	△229	H29.12~H30.11発電分
減価償却費	11,659	11,851	△ 192	13,218	△ 1,560	
償却資産税	1,294	1,456	△ 163	1,482	△ 188	
電気事業税	0	214	△ 214	0	0	
借入金利息	203	1,099	△ 895	453	△ 249	
その他諸費用	1,109	2,136	△ 1,027	983	126	点検費、保険料、管理費
支出合計 ②	14,266	16,756	△ 2,491	16,136	△ 1,871	
収 支 ① - ②	6,611	143	6,468	4,969	1,642	

JA職員 農作業実習報告 第3回

先月号に引き続き、若年職員（採用2～3年目）を対象としたJA非常勤役員宅における農作業実習につきまして、各実習生の感想と今後の抱負をご報告させていただきます。



①実習先	②実習期間	③作業内容	④感想
販売部 農産課 渡部 翔也 (平成28年4月入組)			
①深川支所音江地区 寶利 靖必 理事宅	②平成30年6月13日～6月19日		
③にんにくのとう摘み作業、防除作業、電気牧柵の設置作業			
④初めて農作業にふれて、足腰の痛みや花粉症など身体への負担はあったものの、ストレスなく毎日穏やかで清々しい気持ちで作業をすることができました。実習先は仕事の話はあまりせず笑いが絶えない環境で、疲労を感じず作業がしやすかったです。約1週間という短い期間でしたが、自分が手を掛けたにんにくがどのように生長し収穫されるかが楽しみで、都合が合えば収穫作業の見学にも行きたいです。今回の実習を通じて、組合員の苦労や思いを理解し、行動に移せるような職員を目指していきたいと思います。			
農業振興部 振興課 清水 雄斗 (平成28年4月入組)			
①深川支所音江地区 寶利 靖必 理事宅	②平成30年6月13日～6月19日		
③にんにくのとう摘み作業、防除作業、電気牧柵の設置作業			
④日中の作業中は非常に暑く、育苗ハウスのビニール巻き上げ作業の時には、時々吹く突風に苦労しました。にんにくのとう摘み作業は、実の大きさや品質に大きく影響する作業でしたので、非常にやりがいを感じました。また、実習先ではどのにんにくも同じ食味になるよう試行錯誤したということを伺い、作物の収量だけではなく、品質（食味）を非常に大切にしていることが印象に残りました。電気牧柵設置作業では、昨年まで有害鳥獣害駆除を担当していましたが、実際に電柵ワイヤーを張る作業の経験が無かったため参考となりました。今回の実習では、実家のきゅうり栽培とは異なる今まで知らなかった作業方法を多く発見でき、非常に参考になりました。			
販売部 畜産課 山崎 栞 (平成29年4月入組)			
①深川支所一已地区 赤川 光男 代表監事宅	②平成30年8月2日～8月6日		
③花き選花作業			
④立ち仕事、下を見ての作業であったため、足や首に疲労はありましたが、休憩も十分にいただき苦に感じず実習ができました。実家以外の農家の雰囲気を見ることや、実習先の皆さんとゆっくり話すことができ、終始楽しく実習を行う事ができました。お手伝いの方を含め、皆さん疲れを感じない明るさで仕事をしており、声掛けも多く、見習いたいと思いました。また、毎日の出荷目標があり、それまで頑張ることができ、終えた達成感も得られました。農作業経験としての学びもありましたが、効率の良い職場の雰囲気をかせていただき、自分の仕事の仕方を見直すきっかけになりました。			
経済部 北竜資材課 阿部 龍弥 (平成29年4月入組)			
①深川支所一已地区 赤川 光男 代表監事宅	②平成30年8月2日～8月6日		
③花き選花作業			
④初めての経験で不安はありましたが、受入先の方々に歓迎していただき実習に入ることができました。徐々に作業にも慣れ、資材商品について話をしたり、供給していた段ボールなどが実際に使われている現場を見ることができ良い経験になりました。受入先の皆さんとのコミュニケーションが自然にでき、「昨年の出荷量を超えて良かった」「来年も実習があるならまた来てほしい」と言っていただき、最後には打ち上げにも呼んでいただきました。自分自身、とても満足のいく実習になりました。			



新 風



農家後継者



氏 名 中川 裕哉 さん

年 齢 33 歳

就 農 年 平成30年1月

地 区 幌加内支所 南幌地区

経営面積 36・7 ha
(水稲・そば)

☆目指す農業

大学を卒業後、販売関係の一般企業に就職しておりましたが、結婚を機に退職し実家で就農することとなりました。

今までは「見ていただだけの農業」でしたが、やると決めたからには「安心・安全はもちろん食べた方に「おいしい」と思っていただけのような農作物を栽培していければと考えております。

周りの皆様のご協力があつて初めて自分の目指す農業が実現できると思っておりますので、これからもご指導よろしくお願い致します。

新規就農者



氏 名 櫻庭 誠之 さん

年 齢 36 歳

出身地 北竜町

趣 味 パソコン

研修先 北竜支所 吉田屋ファーム(株)
代表取締役 吉田 修 さん

☆目指す農業

以前勤めていた機械・電気系の仕事を退職し就農しました。

吉田屋ファームでは米・麦・そば・豆などを中心に作付していますが、将来は園芸作物など様々な作物に挑戦していきたいと思っています。

農業の基本的な知識を持っていないため失敗も多いですが、頑張っていきたいと思いますので、皆様のご指導よろしくお願いします。

【新規就農希望者受入農家・新規就農希望者募集】

JAきたそらちでは、新規就農希望者を募集しております。興味がある方は、下記にお問い合わせ願います。また、JAホームページ・農業人フェアでの募集も実施しておりますので、お気軽にご相談下さい。

- ◇ 問い合わせ先：農業振興部 営農企画課【TEL：0164-26-0134】
- ◇ ホームページ：<http://www.ja-kitasorachi.com/farmer/index.html>
- ◇ マイナビ就農フェスト：日 時 3月16日(土) 13:00～16:00
場 所 札幌フコク生命越山ビル 10F マイナビルーム
〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西3丁目1
出展地区 深川市

JA 北海道大会実践フォーラム パネルディスカッション

昨年11月、JAグループ北海道は、第29回JA北海道大会の決議事項に対する実践機運を高めることを目的に、「JA北海道実践フォーラム」を開催しました。「多様化する組合員ニーズに応える新たな協同組合の価値創造」をテーマにJA北海道大会当日に開催したパネルディスカッションの内容を2回に分けてご紹介します。

パネリスト

コーディネーター



小野寺俊幸 氏
JA北海道中央会副会長
JAとじろ 会長理事



青竹 豊 氏
(一社)日本協同組合連携機構
(JCA) 常務理事



行友 弥 氏
(株)農林中金総合研究所
顧問 特任研究員



宮入 隆 氏
北海道大学 教授

JA、生協、森林組合、
青竹常務 JCAは4
月に立ち上がりました。

行友顧問 元々は新聞社で農林水産業の取材に携わり、今は東日本大震災、特に福島原発事故で被災した地域の取材に行っています。取材を通じて、協同組合の意義について考えさせられる機会も度々あります。

あわせて、今後の実践のヒントをパネリストの皆さんから頂き、持ち帰ってもらえればありがたい。

役割を再確認する場とさせて頂きたい。

を総括し、新たなステップに繋げるための段階として、JAの持つ多様な役割を再確認する場とさせて頂きたい。

宮入教授 テーマは、議案第2号に係る協同組合の価値づくりです。難しいテーマですが、前回大会と2回の実践フォーラムを通じ、各地で様々な取り組みを開始していると思います。これまでに総括し、新たなステップに繋げるための段階として、JAの持つ多様な役割を再確認する場とさせて頂きたい。

漁協など様々な協同組合の連携を広げるために設立。私は4月まで日本生協連におりました。協同組合の連携を、より強めることについて、知っている範囲で事例報告をさせて頂きたい。

宮入教授 まず、『組合員との関係強化』について、報告事例も踏まえて討論します。生協と農協の共通の課題も多くあると思います。多様な組合員ニーズへの対応として、組合員の自主性を保ちながら、新たな参加の形をどうしていくか。組合員の想いをくたな活動に変え、組合員参加の多様な形を実現させるといふ示唆に富む報告でした。



【事例報告】
①生協における組合員との関係強化
②持続可能な開発目標(SDGs)と協同組合間連携

小野寺副会長 全道JAの代表であり、一生産者として、組合員のニーズにどう応えていくか。最も難しい問題も難しい問題について、考えていきたい。パネリストの皆さんの話の中で、一つでもヒントを得たいと思います。

行友顧問 事例報告のキーワード

は「元氣」「楽しく」「多様」「地域に」でしょう。生協の活動をそういう方向に高めていくことが大切だと感じました。地域が抱える課題は人口減少・少子高齢化などを背景に複雑化・多様化しています。協同組合も規模が大きくなると、サービスを一方的に供給することになりがちですが、組合員自らの参加で課題を解決する流れを作ることが大事です。JAは農政の実務を担ってきた歴史もあり、組合員が受け身になりやすく、自ら能動的に組合運動に参加する意識が薄れているのかも知れません。生協も同様の問題を苦勞して乗り越えようとされていると思います。

宮入教授 受動から能動へ切り替える難しさ。想いをくみ取って、参加スタイルを多様にする。生協も実現までに苦勞があったと思います。**青竹常務** 各生協で、参加をどのように広げていくか、大きな悩みを抱えながら、日々格闘している。

JAの方が、農業者にとってなくてはならない存在であり、先輩だと思っています。お互いに交流しながら、時代にあった参加の仕方を磨いていきたいです。

宮入教授 JAも生協も、組合員活動をどう支援するかが基本。組合員の多様化の中で、今までと違い、世代間のギャップなどが課題にあれば伺いたい。

JAも70年の歴史を経た中、若い人たちに、どうやってJAに結集してもらうか。農協運動の中で組合員が何を求めているか。若い人たちと農協運営者の目線、考えのギャップが大きく出てきており、そこに農協運動の難しさがあります。地震で被災したJAの施設に、若い人が結集して、被災したコンテナや馬鈴薯などを、自分たちの力で片づけ、1週間かかる作業が2日間で終わった。

小野寺副会長

若い人たちが農協に結集すると、すごい力となって働く。若い担い手の力の素晴らしさ。普段は、口にしなくても、何かあればJAに結集して、仲間や友を助ける自分のJAという想いに感銘を受けた。

組合員との関係強化と言うと、いつもは自然に存在しているが、何かあったときに、JAに入っていて良かった、組合員で良かったと感じることも大きいのでは。福島取材でのお話などあれば。

宮入教授

住民が長期間避難した地域では農業が空白状態になりましたが、飯舘村などでは最初にお年寄りが戻り、最近は若者が移住して就農するケースも出てきています。そういう地域は人の繋がりが濃密で支えあいの土壌があります。社会関係資本（人間関係）が豊かな地域は、災害からの回復力が強いのではないのでしょうか。協同組合は、それを体現する組織であり、大事だと思います。

行友顧問 住民が長期間避難した地域では農業が空白状態になりましたが、飯舘村などでは最初にお年寄りが戻り、最近は若者が移住して就農するケースも出てきています。そういう地域は人の繋がりが濃密で支えあいの土壌があります。社会関係資本（人間関係）が豊かな地域は、災害からの回復力が強いのではないのでしょうか。協同組合は、それを体現する組織であり、大事だと思います。**宮入教授** 『組合員との関係強化』について、組合員の自主性をどう協同活動に活かすか。JAでも、組合員の想いを、上手く活かして事業にしていけることが、ニースの多様化の中で求められると思う。

生活スタイルも世代も異なる人たちが、JAに参加している。そういう声をどう聞き取るか。具体的な方法として、アンケートもあるが、声をどう聞き取って形にするか。生協の事例について、もう一度、お聞かせいただきたい。

生活スタイルも世代も異なる人たちが、JAに参加している。そういう声をどう聞き取るか。具体的な方法として、アンケートもあるが、声をどう聞き取って形にするか。生協の事例について、もう一度、お聞かせいただきたい。

生活スタイルも世代も異なる人たちが、JAに参加している。そういう声をどう聞き取るか。具体的な方法として、アンケートもあるが、声をどう聞き取って形にするか。生協の事例について、もう一度、お聞かせいただきたい。

生活スタイルも世代も異なる人たちが、JAに参加している。そういう声をどう聞き取るか。具体的な方法として、アンケートもあるが、声をどう聞き取って形にするか。生協の事例について、もう一度、お聞かせいただきたい。

生活スタイルも世代も異なる人たちが、JAに参加している。そういう声をどう聞き取るか。具体的な方法として、アンケートもあるが、声をどう聞き取って形にするか。生協の事例について、もう一度、お聞かせいただきたい。

生活スタイルも世代も異なる人たちが、JAに参加している。そういう声をどう聞き取るか。具体的な方法として、アンケートもあるが、声をどう聞き取って形にするか。生協の事例について、もう一度、お聞かせいただきたい。

き取る力が大変重要です。宅配担当職員は、週に1度、組合員と顔を合わせ、いろんな質問や悩みを聞く、生協をやめると言われる場合もありますが、その背景を聞き取ることが大事。また、近畿の生協では、職員研修で、JAにお願いをして、一定の期間、畑や牛舎・鶏舎など、生産現場を体験させてもらっています。

本日の大会議案で、若いJA職員に組合員の会議への参加を位置づけています。現場・組合員の所に行くことが重要であり、その中で、聞き取る力や相手の想いを受け入れる力が育ちます。このことが、人と人が作る協同組合の大きな特徴だと思います。

宮入教授 聞き取った内容を情報交換する場所はあるのでしょうか。

青竹常務 すぐに対応できるものは対応し、重要な商品クレームなどは、組織対応に引き上げることもあります。

クレームやお問い合わせ・要望を登録し、組織全体あるいは役員会・理事会で状況をつかむためのデータベース作りを進めている生協も増えています。

宮入教授

担当者も変わる中、データベースにクレーム等も含めて、声を溜めることが、新たな取り組みに繋がるというお話。なるほどと思います。

多様な組合員ニーズという意味で、北海道の組合員数の80%に及ぶ准組合員との関係づくりをどうするか。准組合員との関係づくりについて教えて頂きたい。



小野寺副会長

前回大会で、550万人サポーターづくりを掲げ、准組合員をはじめ、消費者の皆さんと、食と農で繋がることを目指して活動をしています。農業者もある意味で消費者だと考えますと、多様な消費者があり、生協から、色々と学んでいかないとけませんし、これからは、生協を含めて色々な方々と手を結び、横の連携を広くして、農業だけの目線で見るとはなく、多様な人たちの意見を農協が取り入れられるかに尽きると思います。

北海道の世帯数の60%以上が、生協に加入しています。生協における組合活動の素晴らしさを、我々も認識し、組合員との関係強化に向けて、目線を移していかないといいないと

考えています。

宮入教授

准組合員調査を通じて、准組合員はJA事業利用に対して正組合員に近い考え方を持っていると感じています。自ら准組合員になっている方々の声を、聞き取っていくことも大事だと思います。

行友顧問

JA横浜では、准組合員向けの農業体験講座が発展して正組合員の農業を手伝う援農ボランティアの取り組みとなり、正組合員と准組合員の関係を作る契機にもなっています。

北海道は、准組合員の割合が高く、農協がないと地域が持たない部分もあると聞きます。地域の様々な課題に対応するうえでも、正と准の垣根を低くして、協力しあう関係作りが必要だと思っています。

宮入教授

JA事業でライフライン・インフラを維持している地域が多く存在するのも事実で、あてはまらないが、准組合員の利用が規制されると、JA事業も影響を受けます。正と准の支え合いを、目に見える形で作っていく必要があると思います。

営業時間変更のお知らせ

【金融共済部】

4月からATMの稼働時間が下記の通りとなります。

店舗名	ATM 稼働時間 (4月1日～10月31日)		
	平日	土曜日	日曜日・祝日
本所	9:00～18:00	9:00～17:00	9:00～17:00
金融共済音江支所		9:00～12:00	稼働しません
金融共済深川支所			
金融共済納内支所			
金融共済多度志支所			
金融共済雨竜支所			
金融共済北竜支所			
北竜町COCOWA			
金融共済幌加内支所			

※各店舗(窓口) 平日 9:00～16:00

※祝日の影響により営業を休止させて頂く場合がございます。

くわしくは下記までお問い合わせください。

金融共済部 本所(貯金・融資) TEL: 0164-22-6618

**J
A
グ
ル
ー
プ
通
信**

J Aグループの連合会・中央会の活動内容を
紹介します。

ＪＡ北海道大会決議事項の実践やその時々々のトピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトを
ご覧ください。

**J
A
北海道中央会**

J Aグループ北海道は平成30年12月17日に、北農ビルで9月に刈り取



った稲の脱穀やしめ縄づくりを行いました。田植
えから稲刈りまで、1年を通して行ってきた食育
活動「街なか田んぼ」の最終回として、中の島
興正保育園の園児10名が参加し、園児自らが茶
碗を使って稲を脱穀、すり鉢で粃すりをした後、
精米機を使って精米まで行いました。ご飯が炊け
るまでの間、稲わらを使ったしめ縄づくりも体験。

最後は炊きたてのご飯でおいぎりを握り、自分たちが作ったお米を味わいました。

JAGグループ北海道は、これからも農業体験を通じて食と農の大切さを子供たちに伝えて参ります。



JA北海道信連

昨年12月に、地域貢献活動の一環として、サンタクロースに扮した

JAバンクのキャラクター「ちよリス」が、被災地のむかわ町、厚真町、安平町と釧路市・中標津町の幼稚園等10カ所を訪問しました。

園児らと野菜しりとりゲームやダンスなどで楽しく交流し、最後にちよリスからクリスマスプレゼントを贈りました。地震により被災した地区の子供達も、ちよリスとの触れ合う時間を楽しんでいました。



ホクレン

ホクレンは、冬においしい北海道かぼちゃ



「りようおもい」をアピールするイベント「冬至には『りようおもい』を食べよう!」を昨年12月15日、札幌市清田区のイオン札幌平岡店で開きました。同店の青果売り場で「りようおもい」を販売するとともに、(株) もりもとの協力を得て、「りようおもい」を使用したぜんざい1,000食を正午からと、15時から2回の2回に分けて来店客に提供しましたが、それぞれ1時間ほどで終了する盛況ぶりでした。



**J
A
共済連北海道**

2月4日から11日まで開催された「第70回さっぽろ雪まつり」大通会場

4丁目にて、『平成30年度J-A共済全道小・中学生交通安全ポスターコンクール』の入賞作品63点を展示しました。交通ル―

ルの大切さや交通安全に対する願いが描かれた小・中学生の皆さんの力作が並びました。

JAとJA共済連北海道は、今年もさまざまな地域貢献活動に取り組んでいます。



J A 北海道厚生連

12月18日、札幌厚生病院小児科病棟にてクリスマス会が開催され、

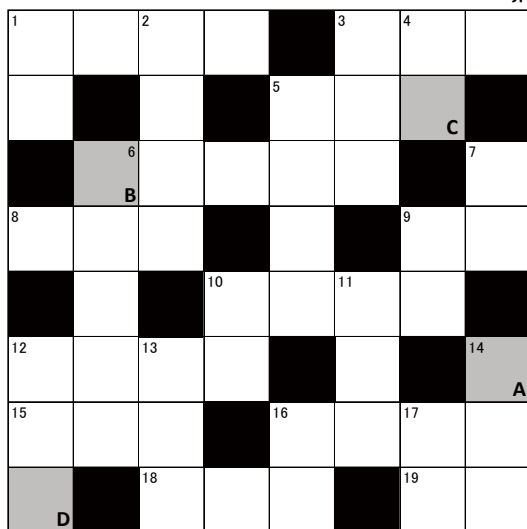
北海道コンサドーレ札幌の深井選手と菅選手、ドール君、コンサドーレズが病院を訪問されました。この企画は、J-Aグループ北海道とコンサドーレとの相互協力協定に基づき、食育とスポーツ文化、地域文化振興にかかわる事業の一環として行われ、今年が11回目となります。



プロ選手を目の前にして、緊張気味の子どもたちでしたが、PK合戦やダンスで緊張もほぐれ大いに盛り上がり、満面の笑みを浮かべていました。

クロスワードクイズ

提供元:クロスワード.jp



A	B	C	D
---	---	---	---

1月号の正解は

「イノシシ」でした。

正解者の中から抽選で3名が選ばれました。

深川市 研谷八重子 様
 深川市 三好 友恵 様
 深川市 西野 恵 様

【タテのカギ】

- 1 干したものはおにぎりの具に
- 2 息を吸ったり吐いたりすること
- 3 歩行者用の道
- 4 ジャガ、サツマ、サト、ナガ
- 5 常に心がけていなければなら
ないこと
- 6 3月21日頃、昼と夜の長さが同
じになる日
- 7 日本の民話、さる〇〇合戦
- 9 8本足の軟体動物
- 10 バラ科、水分と甘味に富む果
実、有りの実
- 11 どこかわからない場所や方向
をたずねる言葉
- 12 日本の成人年齢
- 13 乗っていた馬から落ちること
- 14 孫の子ども
- 16 声によって音楽的な音を生み
出す行為
- 17 トンボの幼虫

【ヨコのカギ】

- 1 電車やバスなどが決まった路線
をたどって行くこと
- 3 乳幼児を保護して育てること
- 5 5月5日「〇〇〇の日」
- 6 春に田畑を耕すこと
- 8 7日間を1単位として区切った
期間
- 9 山と山の間の深くくぼんだところ
- 10 種をまいて作物の苗を育てる場所
- 12 歯をみがくのを使う小さなブラシ
- 15 液体や気体を貯蔵する大型の容器
- 16 建物の裏手にある山
- 18 草むらを大きく飛び跳ねる昆虫
の1種
- 19 正午から夜の12時までの間

応募方法

正解者の中から抽選で3名様に農協全国商品券をプレゼント。ハガキ・FAXで①クイズの答え②住所、氏名、年齢③身近な出来事④農協だよりに対するご意見ご要望を記入の上ご応募下さい。

締切3月31日消印有効で当選者とクイズの答えは5月号に掲載します。

【送り先】〒074-0022 深川市北光町1丁目10番10号

JAきたそらち総合企画室企画広報課

FAXの場合は 0164-22-8611

二月俳句

●雨電俳句会

除雪車の輪唱となる夜明けかな
生かされて仰ぐ山河の初明かり
一文子の眉の決意や成人式
溜めていた笑顔全開冬日向
年の瀬やお金に羽根のあるごとし
母の味存分にありお正月
冬帽子目深に被り立ち話

●「道」俳句会 北電支部

アイヌの灯艶増す寒の木彫熊
人里は火のある暮し山眠る
山頂へ不時着したる冬の雲
海知らず海みる目つき春の猫
痛いほど漢が燃える寒の風
団らんのランプが灯る根深汁
初蝶の生るるふるさと時かな
暖冬の時に乱調厳し朝

●土筆俳句会

引退のなみだの髻雪雫
四君子の図柄の叢淑気満つ
幼児めく夫婦喧嘩や冬ぬくし
成人の日天も祝福晴れ渡る
会合を終へて帰宅や星凍る
枝かしこ雪のたわねに実りをり
一人居の窓に膨らむ寒雀

有田 茉莉
大林アヤ子
北川 満江
小山 邦男
松本 五月
宮武めぐみ
吉見サヨ子

山本 玲子
阿部れい子
吉尾 広子
山岸 正俊
山下 好晴
佐光久美子
杉本 隆文
高田 紀子

高尾美津子
池田 美知
引地紀代子
山川 輝子
南川富美子
佐藤英三子
小橋 厚子

第15回理事会〈平成31年1月30日開催〉

1. 関係団体等諸会議について
2. 平成31年度 監事監査方針及び監査計画について
3. 平成30年度 内部監査結果定期報告について
4. 組合員の加入脱退について
5. 平成30年12月末推定決算について
6. 財務報告及び事業実績について
7. 職員の人事について
8. 名誉組合員 故 原 勇氏への特別香花料の贈呈について
9. 経営定期点検結果の報告について
10. 平成30年度 出資増口の結果について
11. 役員推薦会議の内容について
12. JA全中「優良農業協同組合表彰」について
13. 貸出金の貸付報告について
14. 理事に対する貸出（連帯債務・連帯保証）報告について

議案第1号 出資金の持分譲渡について

議案第2号 出資減口について

議案第3号 職員の期末賞与の支給について

議案第4号 給与規程の改正について

1. 第19回通常総代会開催日程について
2. 平成31年度 役員報酬審議会への諮問（案）について

15. クミカン精算状況について
16. 営農懇談会意見集約について
17. 平成30年度補正予算「担い手確保・経営強化支援事業」の申請状況について
18. 平成31年度「北育ち元気塾」受講生の募集について
19. 米在庫状況と業者別取扱数量について
20. 販売未収金について
21. 畜産販売実績について
22. 青果・花き集荷販売実績について
23. 平成31年度 農薬価格の設定について
24. 平成31年度 早取肥料奨励金の支払いについて
25. 平成31年度 温材予約奨励金の支払いについて
26. 経済部事業実績について

議案第5号 貸出金の貸付決定について

議案第6号 精米施設外構工事に伴う入札業者の選定について

3. 総代選挙の取り進めについて
4. めざす地域農業・組織体制の具体策について



※今月号の健康百科は
休載致します。

組合員の動き

（平成31年1月末日）

		当期首	加入	脱退	当月末
正組合員	個人	1,426	24	48	1,402
	団体	77	8	0	85
准組合員	個人	6,152	56	220	5,988
	団体	337	1	9	329
正組合員戸数		1,033	4	22	1,015

JAローンキャンペーン実施中!!

キャンペーン期間
平成31年5月31日(金)まで

JAマイカーローン

新車・中古車・バイクの購入、車検・修理の費用、運転免許の取得に!

キャンペーン対象条件 ・正組合員および准組合員の方または新たに准組合員になれる方

さらに! ①~④をご利用中または新たにご利用で、
キャンペーン利率から、

1項目ごとに 0.10% 引き下げ!

- ①給与振込 ②公共料金の口座振替
③JAカード ④JAローン



キャンペーン利率

現在の店頭貸出利率

年3.00%



2.20% ~ 1.80%

※保証料込(北海道農業信用基金協会保証の場合)

※変動金利

JA教育ローン

入学金や授業料、仕送り、アパート家賃に!

キャンペーン対象条件 ・正組合員および准組合員の方または新たに准組合員になれる方

キャンペーン利率

現在の店頭貸出利率

年3.00%



2.20%

※保証料込(北海道農業信用基金協会保証の場合)

※変動金利

詳しくは、
お気軽にお問い合わせ下さい!

JAきたそらち

本所	TEL 0164-22-6618	多度志支所	TEL 0164-27-2111
江支所	TEL 0164-25-1111	雨電支所	TEL 0125-77-2331
深川支所	TEL 0164-22-2171	北電支所	TEL 0164-34-2280
納内支所	TEL 0164-24-2211	磯加内支所	TEL 0165-35-2024